教育学部紀要第52集別集の発刊にあたって

文教大学教育学部は，1969年に立正女子大学に初等教育課程・中等教育課程が設置されたことに始まり，今年で50周年を迎えようとしています．教育は国の宝となる人を育て，社会の基盤を築く大切な営みです．その重要性から，教員養成を主目的とする教育学部の設置は長らく国立大学だけに認められていました．しかし，先達は重い扉を開け，私立大学として初めてその設置を成し遂げ，国立大学とは異なり，独自の建学の精神の下，大学の個性を生かした教員養成教育を始めました．以来50年，文教大学は教育学部を中心に全学的に教員養成教育に取り組み，これまでに10,000人以上の教員や保育士を教育界に送り出し，わが国の教員養成を担う基幹大学のひとつとなったと自負しています．

それは単に人数だけではなく，私立大学に教員養成教育を開放させた意義を踏襲し，本学の建学の精神である「人間愛」を基盤に，その時々の社会情勢に対応した質の高い教員養成教育を行い続けてきたことにもあります．さて，社会の変化は激しく，またその様相も複雑化しています．人々の個性や価値観の多様化が進む中で，これからの社会を担う子供には，主体的に判断し，より良い社会の在り方を構想し，他者と共に生き，様々な課題を見出し，自ら考え解決する力を身につけることが求められています．そのため，教員には，子供の発達の早期段階から，それぞれの個性や能力を見出し，それらを伸ばす教育力が求められています．

このような社会的要請に応え，教育学部は次の50年を見据えた新たな一歩を踏み出すことにしました．2020年にこれまでの心理教育課程の理念を発展させ，乳幼児期から児童期・青年期までの発達の連続性を理解し，多様な子供の発達を支援する教員や保育士を養成する発達教育課程を開設することにしました．本別集はこれを記念し，子供の成長を支援する教育と教員や保育士養成に関する論考を中心に編纂しました．本誌が，今後の教員養成教育やその研究のマイルストーンとなることを期待します．

平成31年３月１日

教育学部長　出井雅彦